



■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると1月の自動車生産台数は前年比+4.6%の88万6,966台であった。輸出は43万4,349台で前年同月比+0.2%。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると1月の自動車販売台数(軽除く)は前年比+2.3%の24万9,048台内、乗用車+1.3%、貨物+10.5%、バス+3.1%。

【住宅】

平成30年12月の住宅着工戸数は7万8,364戸で、前年同月比で2.1%増となった。また、季節調整済年率換算値では96.1万戸(前月比0.6%増)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で先月の減少から再びの増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、分譲住宅は増、貸家は減となった。引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比は+0.8%、6万8143t、2カ月連続プラス。出荷は-1.4%、6万8471t。

【アルミ圧延・押出品生産数】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比-6.4%、15万9,944tで12カ月連続マイナス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比+94.2%の609t。
二次合金が-26.4%の1,788t。
スクラップが+13.4%の1万3,926t。
アルミ缶が+50.6%の7,206t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比-2.9%の11万4,211t。
二次合金が-0.7%の10万3,150t。
スクラップが+102.3%の1,133t。
合金スクラップが-16%の3,536t。

【見通し】

自動車は生産が+4.6%。国内販売台数が前年比+2.3%。生産は2カ月連続プラス。

販売が再びプラスに回復しておりこれが続くかどうか今後注目。

住宅着工の動向については、前年同月比で2.1%増となった。また、季節調整済年率換算値では96.1万戸(前月比0.6%増)となった。

今後プラス傾向が続くのか今後の動向に注目。

アルミ圧延・押出品生産数

板類は9万4,625t、-8.8%、12ヶ月連続でマイナス。押出類は6万5,319t、+2.7%、3ヶ月ぶりにプラス。今後更にマイナスが続くかの動向に注目。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比+0.8%、6万8,143t、2カ月連続プラス。出荷は-1.4%、6万8,471t。

今後更にプラスが続くかの動向に注目。

アルミ輸出は、好調な外需生産を受けて新地金スクラップ増加。

アルミ輸入は好調な内需を背景にスクラップ増加。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は年明け以降もLMEや中国塊の下落を受けてスクラップも連れて下落しており売り玉があるのでは?需要面に関しても安価の輸入塊がありスクラップの購入意欲は薄いのではないかと?

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向と春節明けの中国の動向に左右される。

米中貿易に関しては中国政府が米国からの輸入を大幅に増やして2024年までに対米貿易黒字をゼロにすると提案していたと報じた。

前日には「米財務長官が中国への追加関税の一部、もしくは全部の撤回を提案した」とも伝わっていた。

米中の歩み寄りや貿易交渉が進展するとの期待が強まるなど動きがあり、解決とはいかないが米国が引き締めの手綱を緩める可能性があるのではないかと。

春節明けの中国に関しては中国の購買担当者景気指数(PMI)が好不況の分かれ目である50を下回り、中国政府が減速傾向にある同国経済の安定化に向け一段の景気刺激策を実施する姿勢を示したことなどから何かしらの景気対策が行われるのではないかと?

これらを踏まえた2月のアルミ価格は、米中貿易戦争で米国に有利な進展があり春節明けの中国で景気対策などが行われた場合、2,000ドル付近。

両条件が揃わなかった場合現状からもう一段安の1,800ドル付近まで下落するとの予想。

ドル円値は109円~111円(TTM)台を予測。スクラップ購入価格に関しては-5~0円程度と予測している。

【銅・アルミレポート「1月のアルミ概況及び2月の見通し」終了】

銅・非鉄金属地金全般

株式会社 オカモト

代表取締役 岡本宜三

大阪府堺市美原区黒山 696

☎ 072-361-2264 fax 072-361-2265